

在胎 36 週 0 日以降に出生した新生児・乳児における
ビタミン K 欠乏性出血症の予防法ならびに症例に関する全国調査（二次調査）

調査への協力に同意します。

☐ 同意します。 →次ページからご回答ください。

☐ 同意しません。 →調査は終了となります。ご協力ありがとうございました。

*施設名	<u>記述</u>
*回答者氏名	<u>記述</u>
*回答者のメールアドレス	<u>記述</u>

貴施設において、過去 3 年間（2022 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日）に、在胎 36 週 0 日以降に出生した新生児・乳児で、ビタミン K 欠乏症が原因と思われる出血性疾患（頭蓋内出血、消化管出血など）の症例について以下を記載してください。

症例ごとのヘッダー

発症日 2022・2023・2024（プルダウン）年 1-12（プルダウン）月

発症年齢 月齢 1-24（プルダウン）
生後 1 か月未満は日齢 0-31（プルダウン）

性別 ☐ 男
 ☐ 女
 ☐ 不明

児の基礎疾患 ☐ なし
 ☐ 胆道閉鎖症
 ☐ 胆汁うっ滞
 ☐ 肝炎
 ☐ その他 記述
 ☐ 不明

母の基礎疾患 ☐ なし
 ☐ 摂食障害
 ☐ 炎症性腸疾患
 ☐ 抗てんかん薬内服（フェノバルビタール、フェニトイン等）

- ☐ ビタミン K 阻害薬内服（ワルファリン等）
- ☐ その他 記述
- ☐ 不明

栄養方法

- ☐ 母乳（概ね母乳 9 割以上）
- ☐ 人工乳（概ね人工乳 9 割以上）
- ☐ 混合
- ☐ 不明
- ☐ その他 記述

ビタミン K 補充療法

- ☐ 出生時より生後 3 か月まで週 1 回経口内服（経口 13 回法）
- ☐ 経口 13 回法を処方されていたがコンプライアンス不良があった
- ☐ 哺乳確立時、産科退院時、生後 1 か月時経口内服（経口 3 回法）
- ☐ その他 記述

経口 13 回法を処方されていたがコンプライアンス不良があったと回答された方は、
以下にご回答ください。

生後 整数 週以降内服していない

養育者による意図的な経口差し控え

- ☐ あり（疑い含む）
- ☐ なし

病変部位

- ☐ 頭蓋内出血
- ☐ 消化管出血
- ☐ その他 記述

発症時の便カラーカード

- | | | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ | ☐ |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

発症時検査値

血小板数 ($\times 10^4$ / μ L)	
APTT (s)	
PT -INR (%)	

トロンボテスト(%)	
ヘパプラスチンテスト (%)	
フィブリノーゲン (mg/dL)	
D-ダイマー (μ g/mL)	
FDP (μ g/mL)	
PIVKA-II (mAU/mL)	
D-bil (mg/dL)	
AST (IU/L)	
ALT (IU/L)	

治療

- ☐ 新鮮凍結血漿
- ☐ 血小板輸血

- ☐ 気管挿管による人工呼吸
- ☐ 開頭術
- ☐ 胆道再建術、あるいは肝移植術
- ☐ その他の凝固因子製剤など _____ 記述

予後

最終診察時の年齢、あるいは死亡時の年齢

1-4 (プルダウン) 歳、1-11 (プルダウン) か月

生後 1 か月未満は日齢 0-31 (プルダウン)

- ☐ 後遺症なき生存 (DQ>85 もしくはそれに相当)
- ☐ 後遺症あり
 - ☐ 重度精神運動発達遅滞、あるいは寝たきり (DQ<35)
 - ☐ 在宅人工呼吸
 - ☐ 抗てんかん薬
 - ☐ 両側の失明に相当する視覚障害 (疑い含む)
 - ☐ 両側の聾に相当する聴覚障害 (疑い含む)
 - ☐ その他 _____ 記述
- ☐ 死亡
 - 直接死因
 - ☐ 出血性ショック
 - ☐ 肝不全
 - ☐ その他 _____ 記述

*他に該当症例がありましたら、以下の「完了」ボタンをクリック後、お手数をおかけいたしますが、再度本調査ページを開いて登録してください。

質問 本調査に関してご意見ください。

長文記述

ご協力ありがとうございました。